

編集委員会の概要

○ 要望・要請事項 (要望・要請する旨発言のあったもの)

	項目	委員のご意見	回答	対応状況	今後の対応
1	収集したデータの共有・活用 (第3, 4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会で集めた情報をどのように管理していくか。 ・長期保存、活用という観点から、最初の段階でルールを策定しておくべき。 ・データ共有、集約のためにも、外部のUSBが使えない状況の解決に向け取り組んでもりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会でも十分に議論できていないため、現時点で県史全体の方向性をお示しできない状況にある。 ・来年度の導入に向け、クラウドの予算要求をしている。 ・委員に意見を伺いながら活用方法を検討していきたい。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の組織、人員、体制も踏まえて検討を進める。 ・令和5年度は、関連予算が認められる見通し。 ・今後は、Google Workspaceを軸として、具体的な活用方法の検討を進める。
2	歴史文化財課にあるデータベース (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化財課にあるデータベースを共有できないか。 ・必要な部会があれば提供できる仕組みづくりを考えてほしい。 	※ 要請のみ	△	<ul style="list-style-type: none"> ・現データベースはR5.12月に停止し、R6年度以降は新データベースへ移行予定。 ・新データベースは県史でも活用できる方向で構築を進めている。
3	第1期計画の成果報告等 (第4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期の成果報告のコンセプトと県史編集に関する基本的な考え方を共有したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料調査等、専門部会の活動を通じて県史の魅力をアピールし、県民の世論を味方につける視点が必要。 ・次回以降、第1期の成果報告及び公開方法等を議論していきたい。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の第5回編集委員会での協議をスタートとして、来年度中に具体的な内容や編集体制などを固めていく。
4	写真撮影の体制 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影のフォーマットと今後の体制はどのようにするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な議論が進んでおらず、これから検討したい。 ・全体のフォーマット統一は難しいと思われる。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影の方法はひとまず各部会の判断とする。 ・歴史資料調査隊養成講座の開催等、人材の確保及び育成に努めていく。
5	県の外郭団体との連携 (第4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村に加え、高知県文化財団や土佐山内記念財団など、県の外郭団体とも積極的な連携が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両財団の協力は不可欠であり、例えば文化財団の現職2名が民俗部会に入っている。 ・今後は人的な交流だけでなく、写真撮影等、調査の協力体制を進めていく。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば人材育成では、土佐山内記念財団の協力を得て、調査の補助を行う大学生等の養成を進めている。 ・今後は各財団の本来業務に配慮しながら、資料情報収集等の協力体制を更に進めていく。

6	特別調査委員の位置付け (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会の設置要綱に特別調査委員の規定を設けるべきではないか。 ・各部会において意思決定をする際、協議等に参加できるような位置付けてほしい。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会設置要綱には規定されていないが、基本方針第8の5項に規定されている。 ・基本的には部会委員の中で意思決定の仕組みを作っていただけ、特別調査委員はオブザーバーの位置付けになると考えている。
7	佐川町の青山文庫 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の連続テレビ小説に関わりがあり、非常に魅力的な近代史料の宝庫。 ・県民の方々の理解を深めるため、念頭に入れてほしい。 	※ 要請のみ		
8	考古部会の業務委託 (第4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・考古部会では特殊技能を伴った調査が必要。 ・実戦経験が豊富な高知県立埋蔵文化財センターに業務委託することは可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財センターは文化財団の組織で、県の業務委託を受けることは可能。 ・センターに高知県史に携わる人員の配置が可能かどうか検討が必要。 	×	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の考古部会設置に向けて、調査すべき内容を精査し、業務委託が最も効率的な方法であるか検討する。
9	自然環境の取り上げ方 (第4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種の保全などの自然環境についてはどのような割り振りにすべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代部会では、高知県の現在の暮らしに関わるような自然環境を取り扱う。(現代部会長) → 自然部会は後から動くので、現代部会の活動状況を踏まえ、絶滅危惧種など自然環境の進め方について検討していく。(自然部会長) 		
10	学芸員の関わり方 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の関わり方について整理する必要がある。 ・県と市町村の組織で扱いが異ならないよう、統一した方向性を示してほしい。 	※ 要請のみ	△	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門部会の活動には、委員だけでなく、学芸員の協力は欠かせない。 ・各市町村や所属施設の服務規定などの課題もあるため、実際の委嘱等に際しては個別に検討したい。
11	資料調査の印刷費用 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・オーテピアなどで資料調査を行った際、重要な資料については適宜印刷する必要があるため、次年度以降の予算の中に印刷費用を計上しておくべき。 	※ 要請のみ	×	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、オーテピアにおいて県の事業で印刷する際は費用を免除されていることから、令和5年度予算に資料印刷費用は確保していない。 ・但し、市町村の施設など様々な場で印刷を要することもあるため、委員のご負担にならないよう、依頼に応じ対応していきたい。

令和 4 年度 近世部会の活動

(1) 令和 4 年度の活動について

・ 専門部会

これまでに年 4 回部会開催（※対面 1 回、オンライン協議 3 回実施）

・ 部会調査

令和 4 年 9 月：芸西村久重山地区で村役人（名本）を勤めた山中家に伝わる山中家文書（芸西村資料館蔵）

令和 5 年 3 月：山中家文書、村役人（庄屋）を勤めた足達家文書（芸西村資料館蔵）実施予定

・ 個別調査

今村委員：香美郡野市村の新規郷士大石家に伝来した大石家文書（高知県立図書館蔵）

土佐藩士（御小性組）の三宮家に伝来した三宮家文書（高知県立図書館蔵）

事務局作業

・ 高知県内の史（資）料集・目録、報告書、自治体史引用の史料などをリスト化

→オーテピアの OPAC 使用し、令和 4 年 7 月に概ね終了した

※作成したデータは部会委員全員に共有済み、報告書などは随時更新中

（考古・民俗・建造物等の報告書もリスト化し、各専門部会で共有）

・ 「藩志内篇」（高知大学附属図書館所蔵）の撮影及び関連史料の収集

・ 京都大学文学研究科図書館所蔵 土佐藩関係史料調査

→三宅副部長同行のもと史料の概要調査を実施（今後詳細調査が必要か要検討）

・ 史料撮影隊の養成

→現在高知大学の学生が県史編さん事業に参加している

（内訳：4 回生 1 人、3 回生 4 人、1 回生 3 人 計 8 人）

今年度活動

* 9 月 調査の史料撮影（近世・近代の調査に参加）

* 「藩志内篇」の撮影及び翻刻、史料カードの打ち込み作業

- ・市町村の史料所在調査

- 県内の自治体史に引用されている史料などをもとに一覧表を作成

- 史料情報などは県内の委員（渡部館長・望月委員）と協力して行っている

- ※渡部部会長…市町村訪問時に事務局と同行

- ※望月委員…『近世史料所在目録』などの情報提供

（２）令和５年度計画

- ・対面部会の日程決定：年３回（５月・９月・１月）＋オンライン（随時）

- ５月…部会と併せて史料編刊行にむけた作業を実施

- ※令和５年３月の部会調査時に日程決定予定

- ・各調査について

- 部会調査…年２回実施予定（９月・３月）

- 令和５年９月…元高知大学学長 関田英里氏所蔵史料

- 個別調査…各委員年１回以上の実施

【近代部会】活動状況（2022 年度後期）

I 第 I 回合同調査

(1) 資料群名

旧池川町役場資料（所有者：仁淀川町）

(2) 資料群の概要

旧池川町役場（現仁淀川町池川総合支所）2階で保管されてきた役場関係文書。

明治以来の高知県公報類、吾川郡令などを中心に、土地関係資料、教育関係資料、寺社関係資料などで構成。

(3) 調査の日時、場所及び人員

日 時：9月12日（月）11:00～14日（水）15:00

場 所：仁淀川町池川総合支所

調査人数：延べ16名（内委員7名）

(4) 調査の方法

- ・部会委員による資料の概要確認。撮影資料の選定。
- ・歴史資料調査隊による県公報類の撮影。
- ・小幡委員による庶務関係簿冊の撮影。

(5) 資料総数 約670点

- ・このうち委員が選定した全冊撮影予定資料数139点、一部撮影予定資料122点

(6) 撮影作業進捗状況

- ・9月調査での撮影済資料：約50点
- ・1月23日現在の撮影済み点数

全冊撮影資料	93点	一部撮影資料	13点
--------	-----	--------	-----

(7) 調査の成果

- ・明治初年以降昭和戦前期までの高知県布達類が年次毎に簿冊となっており、まとまった形で保存されていることが確認できたこと。
- ・委員がそれぞれの専門的立場で資料の概要を確認し、その重要性や希少性を認識できたこと。
- ・委員が撮影予定の資料に付箋を入れ、今後の撮影の方向性が定まったこと。
⇒委員がそれぞれの専門的立場で布達類以外の庶務関係簿冊を閲覧し、撮影箇所に付箋を入れ、今後の撮影に備えたこと。
- ・『旧池川町役場文書目録』に未掲載の簿冊のリストを作成し、また撮影の必要な簿冊を確認したこと。

(8) 課題

- ・10月後半以降月3回程度の割合で、アルバイト学生とともに池川総合支所を訪れ撮影作業を続けているが、場所が遠方（高知市内から70分程度）故、1日の作業時間が5時間程度しか確保できず、進捗状況は芳しくない。年度内の終了は難しく、作業は令和5年度に持ち越される見込み。
- ・オーテピア高知図書館所蔵の高知県公報類に関しては、高知県公文書館が撮影を計画。池川総合支所所蔵分との重複もあるため、編さん室と公文書館の撮影分担については調整している。



2 第2回合同調査（予定）

日 時：令和5年3月7日（火）～10日（木）

調査資料：『安芸市戸長役場文書目録』『安芸市旧役場文書目録』収録資料

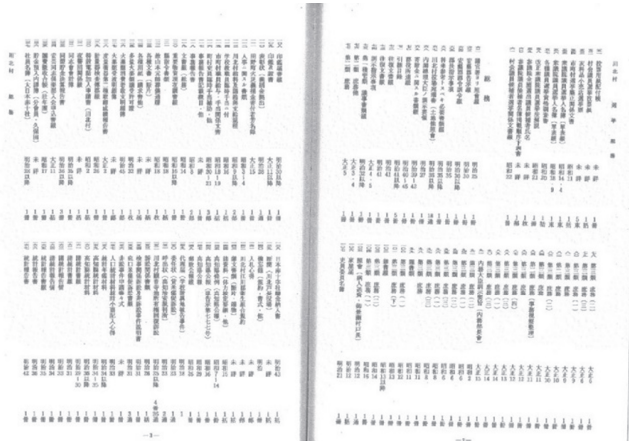
資料所蔵者：安芸市立歴史民俗資料館

調査会場：高知市立自由民権記念館

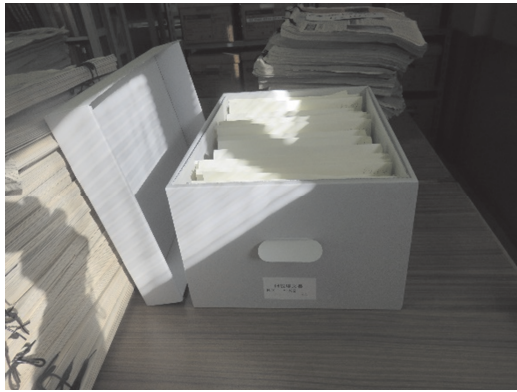
参加予定：全委員、京都大学院生、事務局



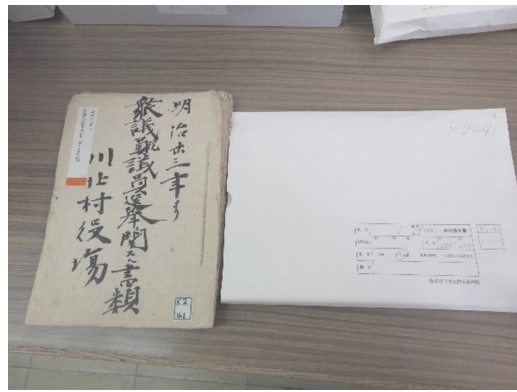
図書館収蔵庫内



『安芸市旧役場文書目録』



文書収納箱



「衆議院議員選挙ニ関スル書類」(明治23年ヨリ)

3 委員による個別調査の実施

(1) 小幡副部長

高知市春野町弘岡上公民館(元の弘岡上村役場)所蔵資料の調査・撮影を踏まえ、史料の検討に入る。

(2) 小堀委員

高知商工会議所所蔵資料(明治～昭和の月報等)の調査、撮影

戦前の『高知商業会議所』の所在の確認と目録作成(他図書館所蔵分も含め)

(3) 羽賀部長

オーテピア高知図書館及び県立歴史民俗資料館所蔵の寺石正路関係資料の調査

2月10日 オーテピア図書館調査(寺石貴重資料「高知県臨時総撰挙暴動彙報 明治25年月」など)

歴史民俗博物館所蔵資料は『寺石関係資料目録』5冊刊行済み、しかし「自筆記録」(日記・旅行記・雑

記など)は整理中とのこと。今後、現状を聞いた上で調査を実施する予定。

(4) 谷川委員

高知小津高校(旧制海南中学)所蔵資料の調査(3月合宿調査) 『小津高校資料』仮目録あり



4 「高知県内における歴史資料所在情報(近代関係)の収集

*現在編さん室で確認しているは23件あり、坂本専門員が確認作業を継続している。

5 戦前の「高知県職員録」のデータ化

*国立国会図書館所蔵の『職員録』(明治19年~昭和18年)、『高知県職員録』(明治10年、同17年ほか)の掲載職員名・職名・官等・官位・勲等などをデータ化して、検索できるようにする作業手順を考慮中。

高知縣	
知事	○第一部
書記官	○第二部
...	...

6 近世史部会との打ち合わせ(「維新編」、「自由民権編」の編集について)

*3月28日午後 岡山大学にて開催予定 (羽賀・奈良委員参加)

令和 4 年度 高知県史民俗部会の活動

1. 7月23日(土)、24日(日)「高知県史編さん 民俗講演会」について

- ・秋に中土佐町にて合同民俗調査を行うことに先立ち、県民のみなさんに県史編さん事業の意義と高知県の民俗に親しんでいただくべく、中土佐町人権啓発センターと高知県立歴史民俗資料館にて講演会を行った。
- ・講師として県史民俗部会の常光徹部会長と、川島秀一委員が登壇した。
- ・講演の後、質疑応答と情報交換の時間を設け、地元の方との交流を深めた。

・講演タイトル

常光部会長：

23日「地震の予兆とまじない」

24日「もし妖怪に出合ったら」

川島委員：

23日「東と西のカツオ漁」

24日「土佐の漁労と民俗」



中土佐町での講演会

2. 合同民俗調査について

- ・10月30日(日)～11月2日(水)の3泊4日で中土佐町にて合同民俗調査を行った。

〈成果〉

- ・浦分から魚が流通していく経路の実態や、山間部と沿岸部の関わりなど、先行研究が詳細に取り上げてこなかった内容について調査を進めることができた。
- ・漁業や祭礼については、先行研究で報告された時期以降の変遷を明らかにした。
- ・矢井賀の神社に奉納されている絵馬など、地域の民俗資料について現状を確認した。
- ・委員間で、県史編さん事業における民俗調査について意識を共有できた。

〈課題〉

- ・合同調査として部会委員が各々の専門分野について調査を行ったため、地域全体を概観するものとなった。今後はより合同調査の狙いを鮮明にし、委員相互の連携を深める必要がある。

今後の調査活動の例

例1：上ノ加江地区での竹練りなど、各地域の青年団の活動と祭礼・芸能との関わりについての調査。

例2：矢井賀地区内に残されている、明治～昭和初期にかけての漁業関係者が奉納した絵馬の記録と調査。

例 3：久礼地区の西岡酒造や上ノ加江地区の旧上ノ加江中学校校舎に保管されている帳面など、文書史料の調査・撮影。

例 4：鎌田港の倉庫に保管されている民具資料の調査（撮影とリスト化）。



中土佐町久礼漁港での聞き書き調査



中土佐町矢井賀港での絵馬調査

3. 個別調査について

基本的に県内委員と編さん室職員が2、3名の体制で、高知県内の祭礼などに対し日帰りの調査を行っている。令和4年は計10回実施。

- 例：・令和4年10月9日 いの町旧吾北村地域 参加委員：常光徹部会長 梅野光興委員
昭和初期頃の生活などに関する聞き取り調査
- ・令和4年10月18日 須崎市大谷 参加委員：梅野光興委員
須賀神社にて行われるオナバレ、花取踊りに対する祭礼芸能調査



旧吾北村 若宮八幡宮の神楽面調査



須崎市大谷 須賀神社のオナバレ

4. 文献リストの作成

- ・ 県史編さん室の民俗担当スタッフにて、高知県の民俗に関する論文・報告・単行本等文献のリスト化作業を進めている。書誌情報のほか、小字（ホノギ）単位までの地名と、文中の主要なキーワードを抜き出していく方式。（次ページ参照）

現在は『土佐民俗』（土佐民俗学会発行）全 100 号分の論文と事例報告を完了し、県内の市町村史の民俗編をリストアップ中。

5. 今後の活動について

- ・ 3月4日、5日の2日間の日程で、中土佐町鎌田の倉庫に保管されている民具資料の調査を行う。集団で作業を行い、倉庫内で保管されている民具資料全体の目録作成を目指す。
- ・ 令和5年度の合同調査について検討し、秋に実施する。本年は県西部を中心に調査を行ったが、県東部の調査についても着手する。
- ・ 民俗部会においても、商家に保管されている帳面などといった古文書資料の撮影を計画する。
- ・ 文献リストについては、市町村史のリスト化が完了次第、伝説・昔話集の単行本にとりかかる。
- ・ 委員の個別調査を積極的に行う。
- ・ 『資料編1』（「ことばと伝承」〈仮称〉令和9年度刊行予定）の構成について検討し、資料の収集を進める。必要に応じて勉強会を開催する。



中土佐町鎌田の民具倉庫の状況

No.	著者	フリガナ	題名	分類1	分類2	掲載誌	発行所	巻・号	年月日	ページ数	地域	キーワード	備考
1	桂井和雄	カザイカズオ	「オボ・オブ・ウブをたずねて」	6	7	『土佐民俗』	土佐民俗学会	第1号	S36.2.10	PP.1-3	沼川郡伊野町川内 長岡郡国府村 土佐清水市下川口町、布、下ノ加江 宿毛市大海、沖ノ島、鶴来島 幡多郡大正村	オボ、オブ、ウブ、ウブガミ、 オブノカミ、オブスナ神、	

文献リスト例

古代中世部会の発足について

1 資料編3巻・本編1巻の構成

(1) 資料編

- ・古代から山内入国に至る土佐国関連資料を網羅的に収集してゆく
- ・近世編纂物をベースにした前県史に対して、史料原本の調査研究に即した編纂を目指す
- ・前県史が全く収録しえなかった記録・典籍・**文学関係史料**・海外関係史料なども広く収集する
- ・長宗我部氏関連文書を体系的に収集する
- ・収集史料については、デジタルアーカイブなどを構築して県民が閲覧できる環境をもうける

【1巻】古代関係史料 編年配列

県内所在文書 郡別・家分・編年配列 令和10年刊行予定

【2巻】県外所在文書 地域別・家分・編年配列

長宗我部氏関連史料 令和13年刊行予定

【3巻】記録・典籍類 編年・書目配列

聖教類・奥書・金石文・文学関連史料
海外関係史料 令和16年刊行予定

(2) 本編

- ・全体を通じて、考古部会・文化財部会との連携をあつくし、文献のみに偏らない叙述を目指す。
- ・資料編の編纂過程で集積した多様な史料をとりあげ、連携性を高めた記述を行う。
- ・時代と地域のバランスに配慮した記述をめざす。
- ・図表や地図などを用いた親しみやすい版面をめざす。

2 資料調査

- ・旧県史所収の近世編纂史料集につき、収載史料の典拠を確認し、原本の有無を調査する。
- ・県内自治体史・隣接地域の自治体史などに収録された関係史料の収集を行う。
- ・関係論文等を網羅的に収集し、典拠とされている史料について収集を行う。
- ・史料編纂所を核として、同所が明治以来収集する複製史料群から当県に関するものを抽出する。
- ・長宗我部氏に関する文書・記録・典籍などについては、当県に直接関係しないものも含めて大系的に収集する。
- ・調査・収集にあたっては、史料所蔵者との間で明確な利用条件を確認し、**県史事業を越えた長期的な利活用に資することを**目指す。

3 年次計画

- ・令和5年 基礎的な史料目録・論文目録の整備、複製史料の有無の確認、県関連施設所蔵史料の調査開始、**史料編纂所における受託研究の着手・推進**
- ・令和6年 史料テキストデータの整備開始、県内所在史料の調査開始
- ・令和7年 県外所在史料調査の開始

現代部会の発足について

1 編さんの基本的な考え方

- (1) 「高知県史編さん基本方針」をふまえ、調査と研究を重ね、現代担当分野の編さんを着実に進める。
- (2) 現代部会では、とくに、「基本方針」の「第3 方針」2にある「県民の暮らし」を軸にした編さんを心がける。
- (3) 現代部会では、とくに、「基本方針」の「第3 方針」1にある「国内外の歴史的な流れ」と「地域の特色」に留意して編さんを進める。
- (4) 現代部会の委員構成（正副部会長と専門委員）では、県内委員と県外委員のバランスに留意し、両者の連携のもとに編さんを進める体制を整えた。
- (5) 現代部会では、年1回の合同調査と個人調査を組み合わせ、現代部会の会議を通じて意思疎通を図り、現代部会としてまとまりのある編さんを進める。第1回部会開催の日程を決める。
- (6) 各地域の関係者との協力と連携を図り、「地域の特色」の把握を図る。
- (7) 以上を通じて、高知県現代史の特色の把握につとめる。

2 資料編・本編の構成

- (1) 現代部会が編さんする資料編3冊、本編1冊のうち、資料編3冊については、2冊を現代前期と現代後期で区分して基本資料を収集・編さんし、もう1冊は、高知県の現代の特色をよく示すようなテーマと内容で編さんする。
- (2) 資料編の刊行にあたっては、文字資料の収集に加えて、聞き取りや動画の作成なども検討し、現代にふさわしい内容と特色を検討する。
- (3) 資料編の刊行順序は、来年度の部会発足後の主要課題として議論する。
- (4) 本編については、「1 編さんの基本的な考え方」をふまえて協議する。

3 資料・文献調査

- (1) 年1回の合同調査では、高知県の現代にかかわる諸テーマを広く扱って共有し、高知県の現代の特色を現代部会全体で検討できる体制をつくる。（候補例）ビキニ事件合同調査を、自然環境（被爆船員）、暮らし（遺族）、教育（幡多ゼミ）で行う。
- (2) オーテピア高知図書館などで所蔵されている高知県現代史の文献と資料の閲覧を進め、現代部会で情報共有を図る。
- (3) 県内各地域の博物館・図書館・資料館、行政機関、業界団体、企業、組合、学校等についても資料の所在確認を進める。

- (4) 調査の担い手は、大学生、地元・在野の方、定年退職者の方で地元キーパーソンの方等に連携を広げ、調査は関連団体（学校資料を保存する会など）とも協力して進める。
- (5) 聞き取りの講座開催や動画撮影の委託・技術修得などを検討し、調査のスキル向上を図る。
- (6) 近代部会や民俗部会との協力連携のもとに調査を進める。
- (7) 国立国会図書館・国立公文書館など、県外（特に東京）の図書館・文書館などへのアクセスを図り、現代高知県の公文書・文献の調査を実施する。

4. その他

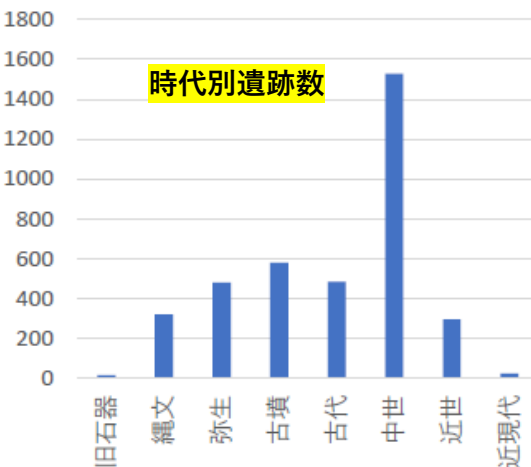
- (1) 県史全体として、紀要（県史研究）発刊の希望
- (2) 震災については、資料編・本編での執筆を検討するだけでなく、実際の震災が起きたときの県史の対応（資料保存の場所など）についても協議しておく。

第5回高知県史編集委員会考古部会資料 (230212)

- 220930 発掘調査報告書一覧作成および報告書PDFの整理
- 221009 **寺石正路氏資料先行予備調査** (歴民) → 【共有】近代・民俗関係
慶応4年9月2日生まれ。スパンサーの「社会学原理」の影響をうけ、郷里高知県の郷土史研究にはいる。海南学校、旧制高知高に勤務のかたわら、資料にもとづく実証的な研究をおこなった。明治30年8月に描きためたスケッチを綴じたもの「**金剛頂寺多寶塔、テヒ山餅店屋、金剛福寺山内家歴代位牌、幡多郡窪津捕鯨場骨切、海南学校生徒行軍休息、明治二十七年十一月六日暁新市町大火後、香美郡押谷蔓橋、国分寺門前旅店所蔵古釜**」
- 221020 四万十町高岡神社関連資料調査 (遍路委員会) → 【共有】近代・民俗関係
- 221026 基盤情報整備についての協議 (東大) → 【共有】全部会
- 221029 「西園寺と一条は、なぜ西四国を求めたか」 (四万十市西土佐ふれあいホール)
- 221114 香南市文化財センタ**先行予備調査** → 【共有】民俗関係
- 221115 データベース協議 (歴民) → 【共有】全部会
- 県立博物館関係機関が整備をおこなっているデジタルデータの現状調査について (事務局)
- 221115 国指定史跡資料調査 (県庁) → 【共有】現代関係 (昭和26年の英語表記)

埋文センター活動の一部

- 2022.11.06「久武親直の城造りと四国侵攻について」
- 2022.11.20遺跡解説会「忠兵衛遺跡」
- 2022.11.27「中世考古学に学ぶ」岡本桂典氏
- 2022.12.04 まいぶん講座「遺構編」
- 2022.12.25遺跡解説会「森山城跡」
- 2023.01.14~01.29佐川町と仁淀川上流域の遺跡展
- 2023.01.29 山城講座と城歩き「フィールドワーク」松尾城跡



- 歴民活動の一部
- 2022.10.20館だより「岡豊風日第117号」
 - 2022.11.11~2023.1.29「長宗我部元親RALLY FINAL」
 - 2022.10.7~12.4「武吉孝夫写真展 一高知県の山村を歩く一」
 - 10.27土佐のまほろばウォーク「古墳時代に思いを馳せる①」
 - 11.5~6「第10回 旧大板高校民俗資料一般公開」
 - 11.27土佐のまほろばウォーク「古墳時代に思いを馳せる②」

- ニュース
- 11.19高知市の追手前高校本館、44連隊弾薬庫・講堂が登録文化財に (文化審答申)

水中遺跡への視線

海底に残る災害痕跡を調べる
一高知県土佐清水沖の調査

KDDI、水空用ドローン 遠隔操作で水中撮影を実証

所在地 高知県土佐清水市瓜白
調査主体 高知大学、海洋研究開発機構

文化庁文化財第三課

★事務局への期待

- ①ホームページ開設 (情報提供と問い合わせ先の周知、県内の文化関係施設や機関のイベント紹介とリンク集、事務局と部会委員によるブログ発信)
- ②年1回の公開シンポジウム
- ③部会横断情報の共有促進
- ④市町村へのお出かけ委員会と市町村担当者による解説と交流
- ⑤図書館との連携

© Heibonsha Limited, Publishers, T

考古部会の資料調査準備221201

どこにどんな遺跡があるのかを部会委員全員が共有して議論できる下地作り



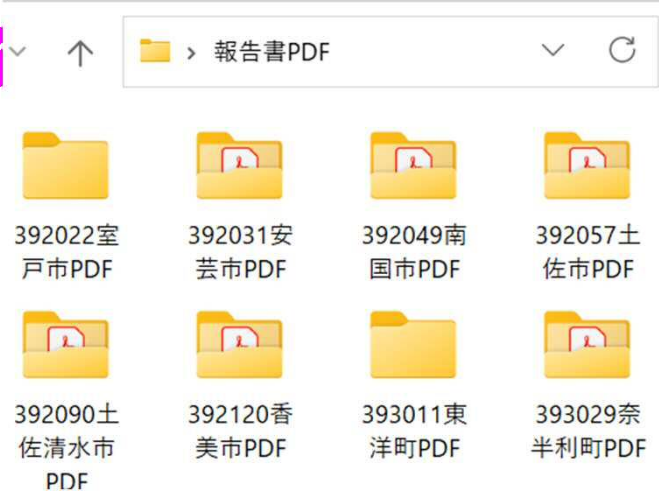
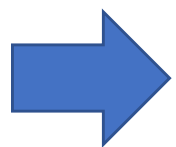
遺跡番号	遺跡名	フリガナ	地域番号	所在地1	所在地2	所在地3	所在地4	集落	洞穴	官衙	城館	交通	窯	田畑	製鉄	その他	墓	墓	墓	墓	他	種別	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	現代
10167	高知城伝下屋敷	コフチ	392014	高知市	丸ノ1丁目3番5号			1													屋敷跡			1	1	1	1	1	1	古代～
10168	金子橋遺跡	カネコ	392014	高知市	升丸9-4 他			1													屋敷跡					1			江戸	
10169	開成館跡	カイセ	392014	高知市	九反186 他			1													藩校跡					1	1		江戸～	
10170	西弘小路遺跡	ニシヒ	392014	高知市	丸ノ1丁目7番 他			1													屋敷跡				1	1	1		中世～	
10171	御手洗遺跡	ミタラ	392014	高知市	神日子御手洗 1																集落跡	1			1	1			弥生～	
10172	追手筋遺跡	オオテ	392014	高知市	追手2丁目1番12号			1													屋敷跡						1	1	江戸	

2、「遺跡リスト」の整備

遺跡番号	遺跡名	書名	編著	発行者	発行年
190119	伏原遺跡	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書:第109集;都市計画道路高知山田線発掘調査報告書:2;伏原遺跡:2		高知県文化財	2010
190126	山田堰	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書:第4集;山田堰		土佐山田町	1983
190126	山田堰	山田堰;(背表紙:物部川水利史)		山田堰 土佐山田町	1984
190128	大塚遺跡	土佐山田町埋蔵文化財報告書:第		土佐山田町	1991
190128	大塚遺跡	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査		土佐山田町	2005
190129	伏原大塚古墳	土佐山田町埋蔵文化財調査報告		(土佐山田町)	1993
190133	稲荷前遺跡	土佐山田町埋蔵文化財報告書:第7集;稲荷前遺跡発掘調査報告書:第41-4号明治地区ほ場整備工事関連遺跡発		土佐山田町	1990
190136	原南遺跡	香美市埋蔵文化財報告書:第2集;原南遺跡発掘調査報告書:市立保育園建設に伴う発掘調査;高知県香美市		高知県香美市	2009

3、典拠資料（報告書・論文・書籍・県史など）の整理

★基本情報の確認について
(報告書バージョン)

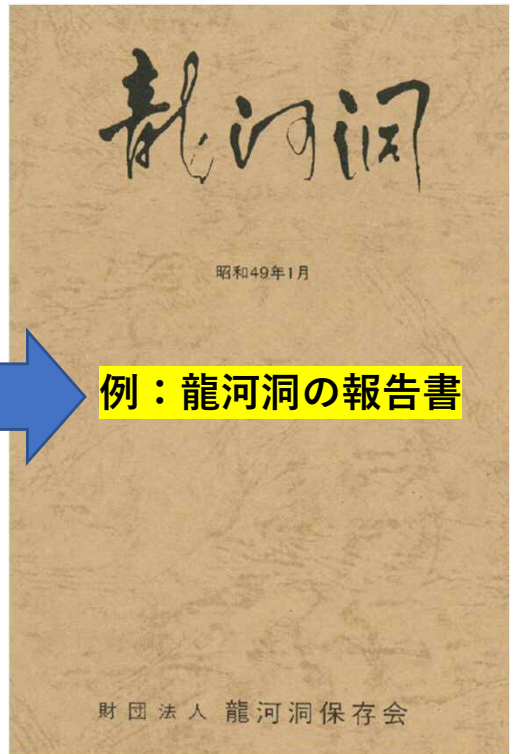


次ページへ続く

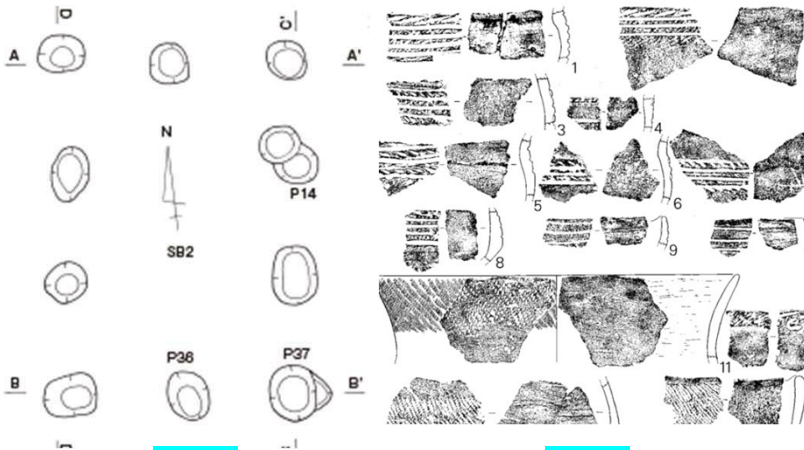
報告書PDFフォルダ

市町村別に格納された報告書PDFフォルダ

前ページの続き



例：報告書の中身



1. 山田三ツ又遺跡出土遺物について

山田三ツ又遺跡出土の遺物点数は総数約3,600点で心であるが、中には石製品、土製品、銅製品や今回れる。土器遺物については表1に示すように調査区に製品としては砥石(fig.131-42他)、石臼(fig.99-1他)、輪については近世消費地遺跡で恒常的に出土が見られて存在した鍛冶工場の残滓であろう。土製品については刀の小柄(fig.155-76)や装身具の一部であろう(fig.155-76)。遺構の殆どは近世中期以降のものであり、従っての主体部は本調査区の東又は南に隣接して存在する。

遺構

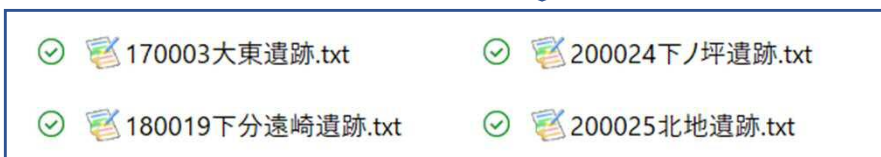
遺物

説明

抄録→

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伏原遺跡	集落跡	弥生 古墳 古代 中世 近世 近代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝跡	石器類 弥生土器 土師器 須恵器 緑釉陶器 土師質土器 備前焼 近世陶磁器	弥生時代後期後半から古代にかけての竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、溝跡が検出された。また、墨書土器及び緑釉陶器が包含層から出土する。古代の焼成土からは土師器片が多く出土している。
要約	伏原遺跡は、弥生時代から近代にかかる複合遺跡である。今回の調査では弥生時代後期後半から古代にかけての竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、焼成土坑、近世のハンダ土坑を検出した。弥生時代後期から古墳時代にかかる土器、須恵器等が確認されている。古代では緑釉陶器、墨書土器、焼成土坑から多量の土師器片が出土した。				

抄録内容の抽出



前ページ2の遺跡リストへ反映

県史編さん費 令和5年度予算の概要

1 編さん体制の構築

- ・編さん委員会を1回、編集委員会を2回（必要に応じて3回）開催
- ・既存の近世・近代・民俗部会に加え、来年度から古代中世・現代部会を立ち上げ、各部会に8名の委員（正副部会長を含む）及び2名の職員（正職員1名＋会計年度任用職員1名）を配置

2 歴史資料調査（古代中世・近世・近代・現代・民俗の5部会）

①県内での資料調査等に要する経費（3泊4日）

古代中世部会 年1回の集合調査と年1回の個別調査（計2回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

近世・近代部会 年2回の集合調査と年1回の個別調査（計3回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

講習を受けた県内の学生（史料の撮影や整理等に1日8名程度）

専門性を持つ県外の院生（調査カードの作成等に1日8名程度）

現代・民俗部会 年2回の集合調査と年1回の個別調査（計3回、全委員分）

協力者 地域の歴史に詳しい方（調査の同行や下準備等に1日2名程度）

講習を受けた県内の学生（史料の撮影や整理等に1日8名程度）

②県外での資料調査等に要する経費（3泊4日）

全5部会とも 東京圏の資料調査を年1回想定（1部会当たり委員2名分）

③県史編さん室での資料調査等に要する経費

全5部会とも オートピアでの資料調査や事務室でのデータ整理を想定
（1部会当たり学生アルバイト50日×2名分）

④東京大学史料編纂所への調査委託に要する経費

古代中世部会 1名の院生が史料編纂所にて週1日程度の調査を想定

3 人材育成・広報啓発

- ・郷土の歴史及び県史への関心を高めるための講演会を開催
- ・学校や団体等の要請に応じて、歴史に関する出前講座を実施
- ・県内の歴史系文化施設と連携し、資料調査隊の養成講座を実施
- ・県の文化広報誌「とさぶし」や県の広報媒体を活用し、県史の編さん状況や本県の歴史の魅力を発信

クラウドサービスの活用案

1. 概要

規模：50人～80人

委員（編集・専門部会）＋事務局（各部会につき1名）＋関係団体

時期：令和5年度～

- ・歴史文化財課の現データベースは令和7年度以降に新データベースに移行予定。
- ・新データベースにてデータ保管、管理を行う予定。
- ・クラウドサービスは新データベースが完成するまで、利用する予定。

2. 導入予定のクラウドサービス

Google Workspace

○ 主な機能

i) Google ドライブ

- ・プランにより容量は異なるが、1人あたり1TBのストレージプールが利用可能
 - ※ 1人あたり1TB、50人利用 → 50人で50TB利用可能
- ・キーワードを入力し、ファイルの検索が可能
- ・WordやExcel、写真やイラストなどの画像ファイル、動画ファイルなどが保存可能
- ・フォルダの作成、データのダウンロードが可能

ii) Gmail

- ・キーワードを入力し、メールの検索が可能
- ・Googleドライブを使用し、大容量のファイル転送が可能

iii) Chat

- ・チャットルームを作成し、複数人で会話が可能（文字のやりとり）
- ・Googleドライブ内のファイルを共有することが可能

iv) その他機能

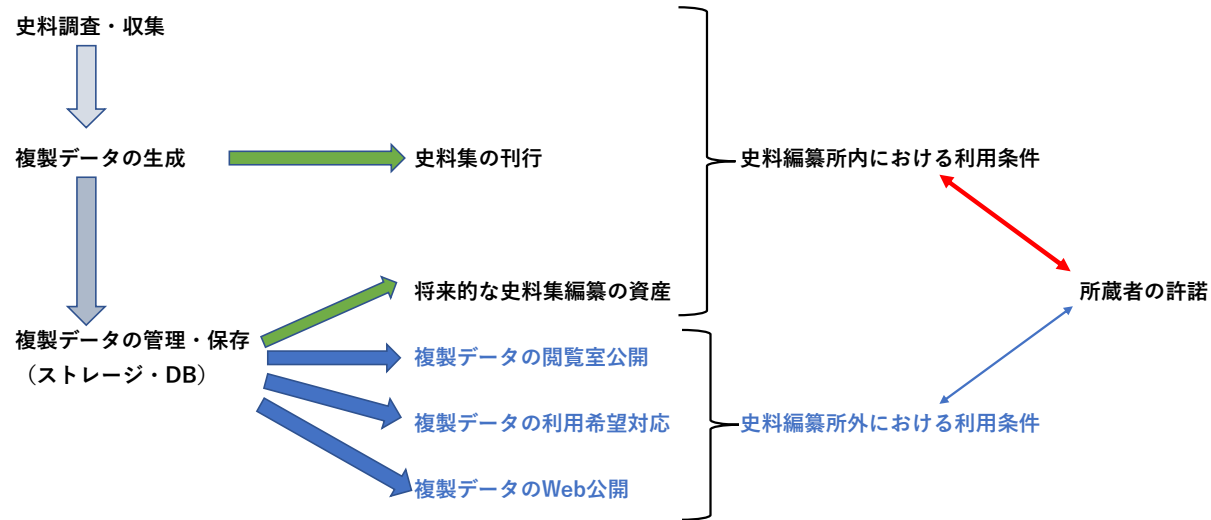
- ・カレンダー、Meet（ビデオ会議）、ドキュメント・スプレッドシート・スライド

○ 権限付与

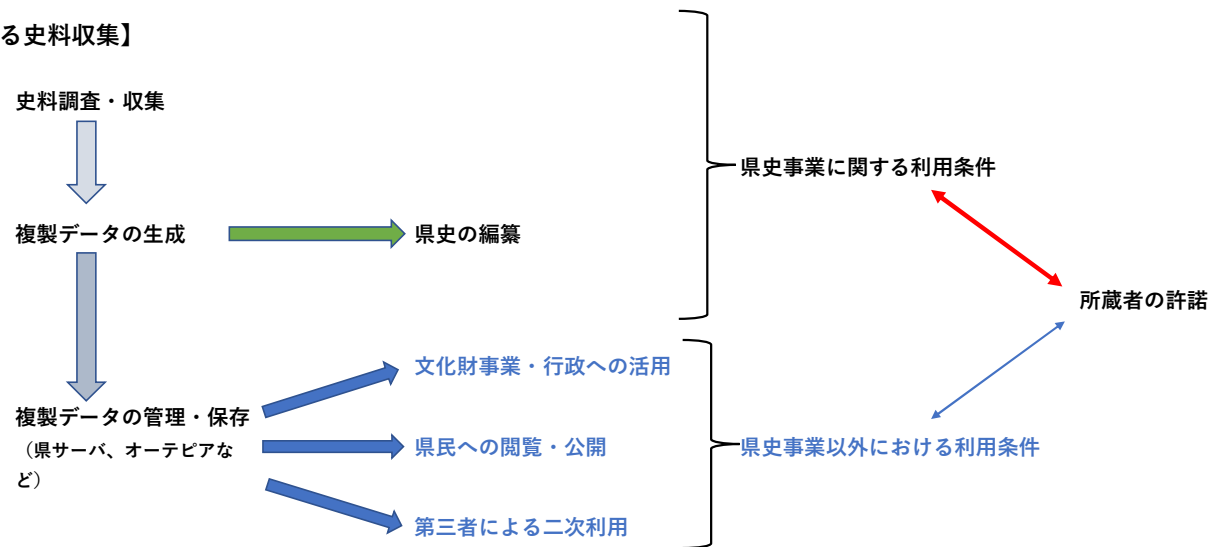
- ・上記機能に権限を付与することが可能
- ・フォルダ内のデータ編集や削除、閲覧といった各種権限付与が可能
- ・端末によるログイン制御によるデータの保全性

編纂史料の収集とその後の利用条件について

【史料編纂所】



【県史における史料収集】



第1期の成果をまとめた冊子等の刊行について

1 趣旨

- ・ 県史の編さんは、相当の予算と人員を要する事業であり、県民の皆さまのご理解をいただき期待に応えるためにも、できるだけ早期に成果を還元することが求められている。
- ・ しかしながら、「資料編」は令和8年度から、「本編」は令和16年度からの刊行を予定しており、県史本体の成果の還元には一定の時間を要する。
- ・ このため、県の文化広報誌「とさぶし」や講演会・成果報告会などによる広報活動と併せて、編さん期間の各期に1回は、資料調査など編さん過程の成果を取りまとめ、分かりやすく魅力ある刊行物を発行する。

2 本日の協議事項

(1) タイトルの検討

- ・ 『新たな高知県史へのいざない』を仮称としているが、そのまま良いか。
- ・ 別案① 『新発見！新解釈！新しい高知県史へのいざない』
- ・ 別案② 『高知を今一度 調査いたし申候』（龍馬の名言から）

(2) 内容の検討

- 案1：第1期中に各専門部会で行った調査の成果を踏まえ、資料の価値や地域との関係を記した資料紹介的なものとする。
- 案2：各専門部会で県民に親しみのあるテーマを取り上げ、関連する資料を先行調査し、その成果を踏まえた分かりやすい読み物として編集する。
- 案3：令和6年度からを目処として、主に各専門部会の委員に執筆いただく研究紀要を刊行し、各期に1度、その内容をとりまとめる。
- 案4：案1～案3のミックス。

(3) 『研究紀要』との位置付けの整理

- ・ 令和6年度からを目処として、主に各専門部会の委員に執筆いただく『研究紀要』の刊行を目指す。
- ・ 「研究書」の『研究紀要』と「一般向け」の『いざない』を明確に区分。

(4) 形式・体制の検討

- ・ どの専門部会に加わっていただくか。
 - 案1：R4～R5に設置する古代中世・近世・近代・現代・民俗の5部会
 - 案2：R6設置の考古部会を加えた6部会
 - 案3：R7設置の文化財部会も加えた7部会
 - 案4：R8設置の自然部会も加えた8部会（R8は第2期となるため困難か）
- ・ 全体で1冊とするか、部会ごとの分冊とするか。
- ・ 判型や頁数の目安。

・無償配布とするか、有償販売とするか。

(5) 刊行スケジュールの検討

令和5年度：タイトル、内容、形式、執筆体制等の検討

令和6年度：執筆

令和7年度：校正 ⇒ 第1巻刊行

令和12年度：第2巻刊行 令和17年度：第3巻刊行

【参考】考古部会の案

資料編に先行する時代のテーマを予告的な各期の成果内容として、今後の県史編さんへの関心を高める。

第1期：「長宗我部の城」←多くの県民が知っている人物と現存する遺跡

第2期：「貫之と希義の時代」←資料編2（飛鳥～戦国）のテーマへの予告

第3期：「弘法大師と歩く」「銅鐸と銅矛のクロスロード」←本編への予告

※刊行物以外に、ホームページやシンポジウムなどを通じて、最終的には県内34市町村の歴史文化遺産が、なんらかの形で紹介されるように計画する。

県史編さん事業の今後の進め方について

1 専門部会の設置予定

- 【令和4年度】近世・近代・民俗部会
- 【令和5年度】古代中世・現代部会
- 【令和6年度】考古部会
- 【令和7年度】文化財部会
- 【令和8年度】自然部会

2 各巻の刊行に向けたスケジュール

(1) 編さん内容の検討

- ・本編で取り上げるおおまかな内容の検討
⇒ 本編で取り扱う項目（目次案）の作成

(2) 資料調査

- ・(1) で検討した内容に沿った資料の調査（部会設置後3年程度を目安）

(3) 資料編の刊行

- ・1巻につき3年程度を目安（資料選定 ⇒ 翻刻 ⇒ 解題執筆 ⇒ 校閲・校正）

(4) 本編の刊行

- ・1巻につき4年程度を目安（執筆 ⇒ 校閲 ⇒ 校正）

3 令和5年度のスケジュール

(1) 5月頃：第2回高知県史編さん委員会

- ・近世・近代・民俗部会から令和4年度の活動状況を報告
- ・近世・近代・民俗・古代中世・現代部会から令和5年度の活動計画を報告
- ・2(1)の項目案について報告（モデル的に1部会）
⇒ 令和5年度以降、他の専門部会においても各巻の項目案を検討

(2) 6月/10月/2月頃：第6回～第8回高知県史編さん編集委員会

(3) 各専門部会での調査等

- ・県内調査3泊4日×3回（古代中世は2回 ⇒ 史料編纂所への調査委託）
- ・県外調査3泊4日×1回（各部会2名分）

(4) 広報・啓発に関する活動

- ・講演会（県史全体で行うか、各部会単位で行うか）
- ・出前講座（県の出前講座一覧に掲載済 ⇒ 希望があれば対応）
- ・歴史資料調査隊の養成講座

広報啓発・人材育成の実施状況について

1. 広報啓発

○ 文化広報誌「とさぶし」の刊行

- ・文化広報誌「とさぶし」を活用した広報の展開（「つないでつむいで 県史編さん室」）。
- ・令和4年度は6月、9月、12月、3月の計4巻発刊予定。
 - 6月・・・高知県史編さん事業について
 - 9月・・・民俗部会講演会（常光部会長「もし妖怪に出合ったら」）
「学制」150年（高知県立高知追手前高等学校）
 - 12月・・・近世部会歴史資料撮影調査（R4.9 芸西村）
民俗部会聞き取り調査（R4.10 中土佐町）
 - 3月（予定）・・・青山文庫特集
- ・令和5年度も3月に1回、年4巻の頻度で「とさぶし」を刊行する予定。

○ 講演会の開催

- ・令和4年7月に民俗部会講演会を開催。
 - 7月23日（土） 中土佐町人権啓発センター 参加者数：41名
常光部会長「地震の予兆とまじない」、川島委員「東と西のカツオ漁」
 - 7月24日（日） 高知県立歴史民俗資料館 参加者数：34名
常光部会長「もし妖怪に出合ったら」、川島委員「土佐の漁労と民俗」
- ・講演の後、質疑応答と情報交換の時間を設け、地元の方との交流を深める。
- ・令和5年度予算にて、講演会開催費用を計上。

2. 人材育成

○ 「歴史資料調査隊」養成講座の開催

- ・令和4年7月に高知城歴史博物館の協力の下、第1回「歴史資料調査隊」養成講座を開催。
内容：資料を取り扱う心構え、資料撮影方法
参加人数：10名
- ・養成講座の修了者10名の内、7名を会計年度任用職員（日々雇用）として採用。県内各地での資料撮影調査、県史編さん室でのデータ整理業務に携わる。
- ・令和5年2月に第2回「歴史資料調査隊」養成講座を開催予定（定員12名を予定）。